

坂の上通信

令和三年二月二十二日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

催開活 復活 クラスマッチ

種目・日程は部分変更

昨年度は行うことができなかったクラスマッチが、3月17・18日に実施される。変更点はあるが、今年度の数少ない行事の一つとなりそうだ。

両日とも午前中に行われ、午後はLHRとなる。過去は午後も試合が行われていたが、

今回は時間が短縮された形だ。また、例年女子はソフトバレーボール、男子はサッカーだった

が、今年は男女ともドッジボールを行い、トーナメント制でクラス順位を決定する。種目の変更について生徒会の濱田先生にお話をうかがったところ

「一つのボールに向かっている可能性を高めることになり。それを避けるため、今回の決定に至りました」ということだ。



一昨年度のクラスマッチ。クラスTシャツを着用している。

学校の「顔」に インタビュー



今回は、国語科の宮崎先生にインタビューを行った。

「どうして先生になろうと思ったのですか。小1の時の先生がと

ても優しい先生で、憧れたからです。休日ほどのように過ごしていますか。

コロナ前は毎週映画館に行っていました。一番印象に残っている

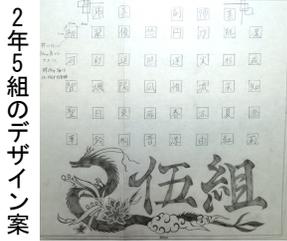
映画は「ニュー・シネマ・パラダイス」の完全版オリジナル。人生が変わりました。

「猫がお好きだそうですね。二匹飼っています。こちらを完全に頼ってくれますので、かわいいです。美高生へ一言。本気で勉強しよう！」

一部のクラスは Tシャツ制作も

2年生の一部のクラスでは、文化祭の中止により作れなかったクラスTシャツを制作する。発案者の一人である2年5組の河内さん

は「クラスTシャツには入学前からあこがれがありました。デザインや色も多数決を取り、クラス全体で作りました。みんな協力してくれてとてもありがたかったです」と話した。



2年5組のデザイン案

美術部 交通安全ポスターで感謝状

2月1日の放課後、校長室で「児童を交通事故から守るポスター」の表彰が行われ、ポスター制作を行った美術部が、警察から感謝状を受け取った。ポスターは、交通事故から子供を守る活動の一環として佐伯区内の高等学校に依頼して作成したものである。美高以外が作成したものも含め、まず広島駅に、その後小学校に提示される予定だ。

交通安全ポスターを高校生が描くことに込められた意味について、

「今年は新型コロナウイルスの影響で、毎年実施していた小学生対象の交通安全教室を開くことができませんでした。その問題の解決策の一つとして、高校生にポスター制作を依頼しました。高校生がポスター制作に携わることで、小学生にとっては身近な先輩が作成したポスターを目にすることに

なっています。交通安全への関心が一層高まること

とを期待しています。また、高校生自身が社会ルールやマナーを学ぶきっかけにもなると

思います。美高も、近隣にある五日市高校も、自転車通学者の割合が市内の他高校と比べて多いので、自転車による事故の危険性

も高い。

佐伯区民センターで定期演奏会

3月31日、美高吹奏楽部の第31回定期演奏会が、佐伯区民文化センターの大ホールで開催される予定だ。昨年度は行えなかったため、こちらも2年ぶりの開催となる。

部員たちは「コロナ対策を行い、創部以来からの伝統を守るため、できる限りのことをしたい」と意気込みをみせた。なお入場には事前の申し込みが必要となる。



練習に励む吹奏楽部

歌は世につれ



歌は世につれ世は歌につれ。歌は、時代のアルバムです。

このコーナーでは、先生方の青春時代の思い出の一曲を、当時のエピソードとともに紹介していただきます。今回は、保健体育科

の関先生にコメントをお願いしました。2004年、当時高校生だった私は、器械体操に無我夢中でいた8月、私はテレビの前で祈っていました。アテネオリンピック、男子体操団体総合の鉄棒

最終試技者、冨田洋之選手の出番です。「自身の新月面を描く放物線は栄光への架橋だ」とアウンサーの素晴らしい実況の直後、冨田選手はピタリと着地を決め、金メダルを勝ち取ったのです。自然と涙が溢れ、感動したことを覚えています。この時のオリンピックテーマソングが「栄光の架橋」。この曲を聞く力が湧いてきます。

アーティスト	ゆず
曲名	栄光の架橋

このような取組を通じて、高校生がルールやマナーを意識するようになることで、安全に繋がる、とのことだ。美術部部长2年4組

の佐藤さんは「今回のポスターで、小学生だけでなく高校生も、歩きスマホや危険運転が無くなるよう意識してほしい」と話した。



感謝状贈呈式(上)と、制作した美術部の皆さん(下)



美・鈴・鈴・鈴

美高でも、しばしば生徒の交通マナーが問題になる。地域の方からの注意の知らせを、HRで聞くことも多い。この問題は日本全体の問題だとも言える。

自転車事故に焦点を当てると、割合が最も多いのはシニアではなく中高生である。特に7時〜8時、16〜18時の通学時間帯に事故が多く、その原因の7割がスピードの出し過ぎや傘さし運転、スマートフォンを見ながらの運転である。▼言うまでもなくすべて法令違反だ。逆に言えば、ルールをきちんと守れば重大事故に遭う危険性は大きく減る。自転車が悪いのではなく、運転者の責任だ。▼自分が被害者になって命を落とすかもしれないし、他人を被害者にしたあげく、数千円円の賠償請求額を負うかもしれない。そんな悲惨な事故が起る前に、交通ルールをもう一度意識

するのはいいか。(川崎壮一郎)

お詫びと訂正
前号の「美・鈴・鈴」担当者は川崎君ではなく谷本惟斗君でした。

編集後記

年度内最終号です。年20号達成しました